



## 日本カトリック海外宣教者を支援する会

## 巻頭言

## キリストの肩とは

慰めの聖母の聖アウグスチノ修道女会 奥田久子

私の所属する修道会（Augustinian Sisters of Our Lady of Consolation）は1883年フィリピンで始まり、フィリピン各地で二十数校、学校を運営しています。そのうちの一つ、ネグロス島南部バイス市にある学校 La Consolacion College, Bais で9年生（日本の中学3年生にあたる）に宗教を教えていた時のことです。

授業のテーマは教会についてで、一コリント12章にあるパウロの教会論、教会とはキリストの体であり、体のそれぞれの部分に役割があるように、教会の一人一人が、教会を支えるためにそれぞれ大事な役割、使命を持っていることを皆で話し合いました。生徒達に「あなたは今、教会でどのような役目を担っているだろうか。あなたはキリストの体のどの部分ですか。」と問いかけ、白地の紙に、それぞれ自由に絵を描いて表現してもらいました。それから分かち合いの時です。ある女子生徒は、「私はキリストの手になって、困っている人、特にお年寄りや病氣の人を助けます。」と、紙に大きく手を描いていました。ある男子生徒は「僕はキリストの足です。倒れることなく自分の足で信仰の道を歩みたいし、大変な時も自分の足で踏ん張りたい。」と力強く話し、また他の男子生徒は「僕はキリストの目です。何が真実で正しいこ

## ♥♥♥ もくじ ♥♥♥

|              |    |
|--------------|----|
| 巻頭言          | 1  |
| 第81回運営委員会議事録 | 3  |
| 宣教者からのお便り    | 10 |
| ザ・メッセージ      | 17 |
| ECHO         | 18 |
| 連載「海外宣教」     | 19 |
| 新入会員・事務局より   | 20 |

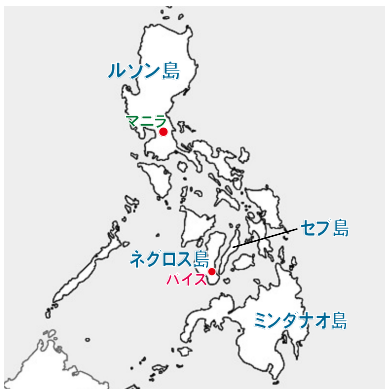


となのか、見極めることはとても大事だから。」と言っていました。個性あふれる豊かな分かち合いのひとつとなりました。

期末試験の時に、同じような問いかけを出し、教会における自分の役割や使命について、文章で答えてもらいました。ある女子生徒の回答が印象的だったので、ご紹介します。「キリストの体である教会において、まず神父様達が、その頭になります。神父様達が神様のみことばを伝えて、教会を導くからです。次にシスター達は、キリストの体における肩となり、頭である神父様達を支えます。私たち信徒は、キリストの手となり、足となって、助けが必要なところに赴き、援助の手を差し伸べます。」

「シスター達はキリストの肩であり、頭である神父様達を支える」という記述に、私は目を見張りました。授業では、神父や修道者の教会における役割についてまで、話し合ってはいませんでした。肩は指とか手とか足に比べるとかなり地味な存在ですが、頭や体が疲れてくると、肩もなぜか凝ってきます。地味で目立たないが確かに体の様々な部分の働きを支えている、そんな機能を持つのが肩でしょうか。カトリック学校を運営する使徒職において、直接、神父様達を支える活動は限られていますが、授業や様々な宗教行事を通して、信仰に根差した人間形成に生徒達を導く私達の活動は、間接的に、司牧者としての神父様方の務めの一部を支え、担っていると言えます。

私達は聖アウグスチノ（354 - 430）の教える会則に従って修道生活を営んでいますが、その会則で、「自分の財産を修道院に寄贈して入会しても、それで傲慢になり、他のきょうだい達を見下すなら、その寄贈するという善き行いが台無しになる。」と、あらゆる善業において、傲慢にならないよう厳しく注意しています。注目されるため、または評価されるために仕えるのではなく、肩が体の様々な部分の働きを支えるように、教会の皆さんの支えとして自分を活



かしていくことができるように、努めていきたいと思っています。このコロナ下でフィリピンに再入国するためのビザの申請ができず、2020年12月より、葛西教会（東京都江戸川区）でお手伝いさせて頂いております。難しい状況にある外国籍の方々との交わりを通して、できることは限られていますが、文化や言語の違いを超えて、「共に歩む」教会としての役割を微力ながら担っていきたいと思っています。

## 第 81 回運営委員会議事録

日 時：2021 年 6 月 12 日（土） 15:00 ～ 17:00 中止

場 所：フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2 階会議室 中止

顧 問：山野内倫昭司教

会 長：村上芳隆神父

委 員：伊藤厚志、桐野香（F.M.M.）後藤美佐子、後藤由美子、島上麻子、諏訪なほみ、  
長井甫、中村文子、延江由美子（M.M.S.）、波多野光男、波多野真理子、  
日高和子（A.C.I.）、山田真知子

・今回も緊急事態宣言の延長で集合せず事前資料送付、メール会議とする。

### 議 事

I. 2020 年度活動報告：すべて承認された。

会 議 運営委員会開催 2020 年 6 月 20 日、9 月 12 日、12 月 12 日（中止）、2021 年 3 月 12 日（中止）

### 諸活動

#### 1) 広報活動

a. 宣教地からのレポートと国内会員の声などを掲載した広報誌「きずな」を年 4 回（6、9、12、3 月）発行し、国内会員と海外で働く宣教者に送付し相互の交流と宣教者の現地活動を、日本の多くの人に伝えた。ホームページも定期的に更新。会員外にも広く活動を告知できた。

b. 海外宣教者のお話を聞く会

今年はコロナ禍で残念ながら開催することはできなかった。

c. カトリック新聞に会の情報を掲載、新入会員を得ることができた。

#### 2) 援助活動

世界各地の宣教者から申請のあった援助について、資料を基にして実情や内容について運営委員会で検討し、緊急性や必要性の高いものから援助を決定し、実行。

集合しての運営委員会は数回開催中止となり、メールなどで行った。

また、世界的なコロナ禍により、今年の援助申請は非常に限られてしまった。

#### 3) 宣教者への支援活動

「きずな」は季刊で世界 140 ヶ所以上、寄付された雑誌や、カトリック新聞等を世界各地に毎月あるいは 2 か月に一度遠方 50 ヶ所に送付。クリスマスカードも一言添えて全員にお送りした。しかしながら世界的コロナ禍で、いたるところ郵便事情がいつもと違うために戻ってきたり現地に遅れて到着したりした。このような時であるからこそ直接受け取ることで読みやすく外に出られない今、楽しみだとの感想も多かった。

#### 4) その他

- ・コロナ禍で宣教者の「事務局訪問」は宣教者と直接お会いすることはできなかったが電話やメールによる報告等で現地を知ることが出来た。また直接送られている会報「きずな」により他の宣教者の様子を知り、宣教地での交流も生まれ、さらには事務局、会員と繋がる事が出来た。
- ・今年はコロナ禍で直接どちらかの教会にお邪魔することが無かったため、会員の皆様との交流はほとんどできなかったが、エコーでお伝えした一言が多く寄せられた。

新入会員 26 名（個人会員） 入金件数 762 件（個人、修道会、教区、教育関係他）

## Ⅱ. 2020 年度決算報告：すべて承認された。

### 2020 年度 会計決算

#### (1)入金の部

海外宣教者を支援する会

(金額単位：円)

| 項 目           | 2020年度予算額  | 2020年度決算額  | 摘 要              |
|---------------|------------|------------|------------------|
| 会 費 寄 付 金 入 金 | 10,000,000 | 9,718,257  | 現金、振替口座、銀行振り込み合計 |
| 基 金 取 崩 し     | 0          | 0          |                  |
| 雑 収 入         | 0          | 0          |                  |
| 預 け 金 利 子     | 0          | 50         | 銀行利息             |
| 前 年 度 剰 余 金   | 6,500,861  | 6,500,861  |                  |
| 合 計           | 16,500,861 | 16,219,168 |                  |

#### (2)出金の部

(金額単位：円)

| 項目      | 2020年度予算額 | 2020年度決算額 | 摘要                          |
|---------|-----------|-----------|-----------------------------|
| 援 助 費   | 6,000,000 | 2,542,086 | コロナ禍援助申請が例年より少なかった          |
| 研 修 費   | 50,000    | 25,300    | チラシを作製したが、お話しは開催されなかった。     |
| 基 金 繰 入 | 0         | 0         |                             |
| 運 営     | 広 報       | 1,000,000 | 926,780 会報誌きずな作成1回のみカラー     |
|         | 印 刷 費     | 290,000   | 254,706 封筒、宛名、コピー機リース代他     |
|         | 通 信 費     | 1,450,000 | 1,420,026 「きずな」国内外発送費、電話代など |
|         | 事 務 用 品 費 | 23,000    | 3,438 コピー用紙、ラベル用紙他          |
|         | 維 持 管 理 費 | 1,600,000 | 1,418,077 事務所維持費            |
|         | 支 払 手 数 料 | 140,000   | 189,813 寄付振込手数料、送金手数料など     |

|             |       |            |            |                             |
|-------------|-------|------------|------------|-----------------------------|
| 経費          | 交 通 費 | 140,000    | 109,593    | 発送ボランティア中止、運営委員会は2回開催されなかった |
|             | 会 議 費 | 20,000     | 11,345     | 運営委員会室使用献金二回分他              |
|             | 雑 費   | 20,000     | 40,399     | 運営委員、元運営委員の交代と帰天。お歳暮他       |
|             | 備 品   | 100,000    | 160,803    | PC1台交換、シュレッダー1台、ブラインドの交換他   |
|             | 予 備 費 | 0          | 0          |                             |
|             | 小 計   | 4,783,000  | 4,534,980  |                             |
| 当 期 支 出 合 計 |       | 10,833,000 | 7,102,366  |                             |
| 次 期 剰 余 金   |       | 5,667,861  | 9,116,802  |                             |
| 合 計         |       | 16,500,861 | 16,219,168 |                             |

## 2020 年度 援 助 費

2021年3月1日現在

|   | 国                | 申請者/申請内容                                                                                                                                                                      | 申請額                            |
|---|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 1 | ルンサー<br>(シエラレオネ) | シスター白幡和子（御聖体の宣教クララ修道会）ルンサーにおいて、宣教活動の車のため、また学校や修道院で発電機を稼働させるためのディーゼルをかうお金が必要。是非1年分の援助申請<br>(2019年度申請、送金環境のため期超しの送金)                                                            | \$ 600<br>(¥65,000)            |
| 2 | アタウロ<br>(東チモール)  | シスター荒井祥恵（聖マリア修道女会）より会で宣教活動を開始するにあたり、東チモールの貧しい人々、女性や子ども達の教育支援などを主に掲げて修道女6名を送り込むための準備についての援助申請。衛生、家具、書籍、教材、教具など全般                                                               | \$ 13,500<br>(¥1,433,295)      |
| 3 | ルンサー<br>(シエラレオネ) | シスター白幡和子（御聖体の宣教クララ修道会）より、8つの学校でコロナウイルスの予防のために生徒たちがよく手を洗うための足踏み式ウォータータンク。\$ 150 x 8 = \$ 1,200の援助申請                                                                            | \$ 1,200<br>(¥139,172)         |
| 4 | サール<br>(チャド)     | シスター泉叔美（ショファイユの幼きイエズス修道会）より、教区立の修道会となる準備をしている共同体に所属する、アガタさんは昨年か助産師（必要な職種）の資格をとるためサール市で勉強している。3年間のコース残り2年分の学費の援助。                                                              | € 1,160<br>(¥146,000)          |
| 5 | ライ<br>(チャド)      | シスター平静代（ショファイユの幼きイエズス修道会）より小、中、高校生の為の学資援助40名～60名の枠で学資の前期分、または前期、後期の学資援助。公立の小、中学生1人当たり1,000Fcfa(全額)私立の小、中、高校生は家庭の状況によって判断。私立中学1人年間/年間35,000F、私立高校生1人年間40,000F、私立小学校1人年間15,000F | € 1,524                        |
| 6 | ライ<br>(チャド)      | シスター平静代（ショファイユの幼きイエズス修道会）より女子寮の長年使用のマットレスの交換！スポンジのマットレス20枚分 1枚→30,000Fcfa（輸送量込み）                                                                                              | € 914<br>(¥306,000)<br>5番、6番合計 |
| 7 | ロハ<br>(エクアドル)    | シスター弘田しずえ（ベリス・メルセス宣教修道女会）よりの申請エクアドルのロハで3歳から18歳までの男女の生徒を教育している学校（Juan Rafael Arrobo Ceballos）、コロナ禍により父兄から月謝が入らなくなり、閉校を迫られている。この学校の電気代、水道代8か月分の援助申請                             | \$ 1,360<br>(¥150,000)         |

|    |    |                                                    |            |
|----|----|----------------------------------------------------|------------|
| 8  | 国内 | きずな、カトリック新聞、カトリック雑誌（寄付された物も）、こじか、聖書と典礼など必要なところに送付。 | ¥302,619   |
| 合計 |    |                                                    | ¥2,542,086 |

1ドル＝¥109～¥110 1ユーロ＝¥125

## 2020 年度 貸借対照表

2021 年 3 月 31 日現在  
(金銭単位 円)

| 資産の部        |           | 負債及び剰余金の部 |           |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 郵便局振替貯金     | 198,162   | 期末剰余金     | 9,116,802 |
| みずほ銀行高田馬場支店 | 8,860,497 |           |           |
| 現金(円)       | 58,143    |           |           |
| 合計          | 9,116,802 | 合計        | 9,116,802 |

(\$ 現金を190.00保有)

### 援助基金内訳

| 金融機関名         | 金額単位(円)    | 金額単位(\$) |
|---------------|------------|----------|
| ゆうちょ銀行        | 9,797,858  |          |
| 三菱東京UFJ銀行     | 4,326,860  |          |
| みずほ銀行(外貨\$預金) | 380,986    | 3,441.61 |
| 合計            | 14,505,704 | 3,441.61 |

### 援助基金推移詳細

|             |         |            |          |
|-------------|---------|------------|----------|
| ゆうちょ銀行      | 前年度繰り越し | 9,797,816  |          |
|             | 利息      | 42         |          |
|             | 小計      | 9,797,858  |          |
| 三菱UFJ銀行     | 前年度繰り越し | 4,326,823  |          |
|             | 寄付      | 0          |          |
|             | 利息      | 37         |          |
|             | 経常勘定へ   | 0          |          |
|             | 小計      | 4,326,860  |          |
| みずほ銀行外貨\$預金 | 前年度繰り越し | 380,875    | 3,440.61 |
|             | 出金      | 0          | 0.00     |
|             | 利息      | 111        | 1.00     |
|             | 小計      | 380,986    | 3,441.61 |
|             | 合計      | 14,505,704 |          |

\*\$ = 110.70

## 2020 年度 会計監査報告

2020年度会計報告を監査したところ適正であることを認めました。

2021 年 5 月 11 日

長 井 甫 

監 査 役 長井 甫

### Ⅲ. 2020 年度の活動計画・予算審議：すべて承認された。

会 議 運営委員会 年 4 回開催（6 月、9 月、12 月、2021 年 3 月）

#### 諸活動 1. 広報他

- 「きずな」年 4 回発行 3600 部
- ホームページの運営による広報活動
- カトリック新聞に広告掲載

#### 2. 援助

- 運営委員会で申請プロジェクトを審議の上、実施する
- 2021 年海外宣教者名簿作成予定（コロナで不可能な場合延期）

#### 3. 講演会・勉強会

コロナ禍を考えて可能であれば開催。

#### 4. その他

- 帰国・一時帰国された宣教者とのコンタクト、電話インタビュー
- 会の PR を兼ねて参加できる場所を模索
- 宣教者へカトリック雑誌、カトリック新聞などを送付
- 宣教者へクリスマスカードを送付

## 2021 年度 会計予算表

### (1)入金の部

(金額単位: 円)

| 項目            | 2020年度決算額  | 2021年度予算額  | 摘要 |
|---------------|------------|------------|----|
| 会 費 寄 付 金 入 金 | 9,718,257  | 10,000,000 |    |
| 基 金 取 崩 し     | 0          | 0          |    |
| 雑 収 入         | 0          | 0          |    |
| 預 け 金 利 子     | 50         | 0          |    |
| 前 年 度 剰 余 金   | 6,500,861  | 9,116,802  |    |
| 合 計           | 16,219,168 | 19,116,802 |    |

### (2)出金の部

(金額単位: 円)

| 項目     |       |           | 2020年度決算額  | 2021年度予算額  | 摘要                         |
|--------|-------|-----------|------------|------------|----------------------------|
| 援助費    |       |           | 2,542,086  | 8,000,000  | 昨年はコロナで申請が少なかった            |
| 研修費    |       |           | 25,300     | 50,000     | お話し会講師交通費、謝礼など             |
| 基金繰入   |       |           | 0          |            |                            |
| 運営経費   | 広報    |           | 930,080    | 1,060,000  | 「きずな」年4回カラー発行・カトリック新聞広告費他  |
|        | 印刷費   |           | 251,406    | 290,000    | 封筒・宛名印刷・コピー                |
|        | 通信費   |           | 1,420,026  | 1,450,000  | 「きずな」・雑誌、国内外送料・電話・郵便・サーバー費 |
|        | 事務用品費 |           | 3,438      | 10,000     | ラベル・コピー用紙他                 |
|        | 維持管理費 |           | 1,418,077  | 1,550,000  | 事務所賃料・人件費1名・電気負担額・団体登録費    |
|        | 支払手数料 |           | 189,813    | 190,000    | 振込・送金手数料                   |
|        | 交通費   |           | 109,593    | 140,000    | 事務所1名、ボランティア、運営委員交通費       |
|        | 会議費   |           | 11,345     | 20,000     | 運営委員会年4回会議室使用献金            |
|        | 雑費    |           | 40,399     | 50,000     | 弔慰金・謝礼他                    |
|        | 備品    |           | 160,803    | 12,000     | 事務所掃除機1台                   |
|        | 予備費   |           | 0          | 0          |                            |
| 小計     |       | 4,534,980 | 4,772,000  |            |                            |
| 当期支出合計 |       |           | 7,102,366  | 12,822,000 |                            |
| 次期剰余金  |       |           | 9,116,802  | 6,294,802  |                            |
| 合計     |       |           | 16,219,168 | 19,116,802 |                            |

### IV. 「きずな」155号について

- ・ギリギリまで宣教者方が原稿を送ってくださり今回も充実。シスター延江の巻頭言について：事前にいただいていた原稿に若干現在の様子を加味されて掲載。 (事務局)
- ・新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言中でしたが、世界各国から支援の報告及び支援依頼の記事やコロナ感染の影響などの記事をお寄せいただき、16 頁にまとめる事が出来ました。各種確認作業にもてまどりましたが、事務局のご協力で完全出来ました。(編集より)



(委員からの意見)

- ・会報誌カラーの方が説得力もあり、現地の事がわかりやすい。
- ・表紙は季節のイラストで良いと思う。
- ・長い文章は小見出しを増やした方が読みやすい。

**V. 「きずな」156号の巻頭言について：承認された。**

- ・フィリピン Sr. 奥田久子（慰めの聖母の聖アウグスチノ修道女会）に依頼した。

通称：アウグスチニアン・シスターズ

**VI. 援助申請内容について**

- ①東チモール Sr. 中村葉子（A.C.I.）より紹介、Sr. マナルーから貧しい地区の子どもに幼稚園建設のための申請（4歳以上40人のため）半年分の教師の給料、テーブル、椅子、黒板などの教室備品、水道設備、建築資材、運営管理費等。\$ 7,140                      約 750,000 円

承認された

- ②チャド Sr. 泉叔美（R.E.J.）より、就学年齢に達しながら、学校に行けない子どもの為マンガーの木陰での識字教室継続費用、教育活動と栄養補充の目的で教材費、教室設置、おやつ、謝礼などの総額。€1,700/ 1年分                      約 220,000 円

承認された

- ③グアテマラ Sr. 眞神シゲ（M.M.B.）より大豆加工工場の為。

- ・貧しい人々への食糧提供と女性の仕事創出のため                      100,000 円

承認された

- ④メキシコ Sr. 眞神シゲ（M.M.B.）よりアメリカを目指す難民のため。                      100,000 円

承認された

(委員からの意見)

- ・援助の給料・謝礼（人件費）などは委員会の中で決まりがあると良い。
- ・東ティモールとチャドの給料の件も今回は了承するが、その後は出来れば他の方法を模索していただきたい。すべて援助に頼るのは現地にとっては有難いことに違いないが望ましい形とは言えないと考える。

レート 2021 年 5 月 18 日現在

**VII. その他**

- ・事務所 夏休みは8月12日～8月19日まで
- ・「きずな」瀬田ボランティア発送は無期限休止、業者発送にする。
- ・事務所発送6月4日ボランティア2人で海外便71通・国内116通発送
- ・次回運営委員会9月11日（土）15時～聖ヨゼフ修道院2階会議室予定



# 宣教者からのお便り



ドミニカ

◆サンティアゴ◆

## ドミニカ共和国での生活

ショファイユの幼きイエズス修道会 小 森 雅 子

ドミニカ共和国に派遣されて早 20 年が過ぎました。初めは新鮮に感じていた景色も今では日常の風景になってしまいました。そこで 到着した 2000 年の頃を思い出して見ました。私が空港に着いたのはある週末の真夜中でした。修道院に向かう夜の車の中で見たのは海岸沿いの公園で賑やかに歌を歌いダンスをし、お酒を飲みかわす人々の姿でした。そして「ああ、常夏の国に来たのだな」と思ったものでした。当時、首都サントドミンゴは停電、断水が毎日、夜にはローソクを灯し、シャワーはバケツに貯めた水で行う生活でした。日本では台風の後には不満をこぼしながら体験する事がここではこれが普通でした。しかし便利な生活に慣れていた者にとっては大変な事でした。まず電化製品が無い、有っても電気や水が無くて使えない事です。洗濯機、扇風機、電子レンジ etc。しかし、これら電化製品は時間の節約のために使う物で時間が有るならば問題ではないと分ったのです。仕事は午前か午後のみ、あるいは 1 日勤務でも午後 3 時には終業などでしたので時間は十分に有りました。そして 20 年後の今は停電、断水はまだ続いています。停電時用の蓄電池や断水用の貯水タンクが家庭でも普及し生活

は改善しています。それと同時に物価も上昇し、ガソリンは当時の 8 倍になりましたが、私のお給料は 2.5 倍です。家には電化製品が増え自家用車も普及していますが、それを維持するためには 2、3 の仕事を掛け持ちしなければなりません。この経済的圧迫が、以前のようなゆとりを失なわせ、犯罪行為が増え治安が悪くなって来ています。ドミニカ共和国はカリブ地区でも治安が良い国でしたが、今は夜 7 時の一人歩きは危険になっています。途上国で重要なのは教育と医療ですがここでは教育の面で徐々に改善が見られます。「国家予算の 4 % は教育費に充てられる」という法律が実施されるように世論が盛り上がった時、私たち修道者も、このデモに参加しました。その結果学校の授業時間の延長や給食の実施そして教員の待遇の改善が進んでいます。今、多くの女性が働きながら大学で学び重要な職務に就き始めました。これから女性の力がこの国を変えてゆくでしょう。医療面では健康保険制度が確立してきましたが、皆保険ではない為、貧しい人や無職の人は、長い列を作る公立病院へ行かざるを得ません。家族の絆が強いこの国では入院患者が出た場合必ず 2、3 人の家族が泊まり込みます。それは患者の状態や必要を医師や看護婦に伝えたり、処方箋どおりの与薬や注射が行われているか確認するためです。この家族の付き添いが無ければ助かる命も失ってしまうことが有るからです。医師らをはじめ専門職の仕事に対する責任、義務、

権利の意識がまだ成熟していないように思います。国は徐々に発展し人々の生活は便利になっていますが、同時に犯罪率の上昇や麻薬の浸透が問題となっています。発展とは快適な生活と引き換えに人間性の喪失や生活のゆとりを失う事かもしれません。今はコロナ禍で経済的にも厳しい時ですが、皆が持ち前の明るさと適応力を生かし進んでいます。私はたとえば 20 年間特別なことは何も出来ませんでしたが、人々と共に生きるという望みは叶えられて来ました。言葉も十分にできず年老いて来ている私を優しく受け入れてくれるドミニカの人々に感謝しつつ、これからも共に歩んでゆきたいと思っています。

ブラジル

◆クリチバ◆

## ブラジルにおけるパンデミック

純心聖母会 塚 本 深 冬

世界中を脅かしているコロナウイルス!!  
なかなか、下火にならない現状!! この世界ではじめて、教会が閉鎖されてしまった!!

ブラジルも、他の国と、同じように公共施設、商店街、レストランなどの閉鎖。高齢者の外出禁止など。社会人にとって、家庭を支えている親たちは、仕事を奪われ、特に、貧しい家庭では、食べるものもなくなり、困っている人が、増える一方である。彼らは、あちこちの家のブザーを鳴らし、食べ物を頼んでいる姿をよく見かける。私達の修道院にも来ます。この人たちは、家も、家族もなく、街の路地で、夜を過ごしている。

困っている人たちのために、何かしなければ

と、日伯司牧協会の人たち、学校の父兄、卒業生の家族に呼びかけ、食料品、生活用品、衣類、衛生面での掃除用品など。必需品が、早急に、学校に集められ、協力者によって、車を出してもらい、カシンバという村、(スラム街)に届けてもらっている。そこには、約 8 千人の人が生活していて、水もなく、去年は、水タンクを寄贈。中古ではあるが、なべ、ガスコンロなど。今年も、協力してくださっている方々の惜しみない心に、感謝しながら食料品、必需品を集め、そこに届けるのを手伝っている。

パンデミックで、去年は何ヶ月もミサに参加できず、毎日 TV を通してのミサ。四旬節は、パパ様のミサを TV で。ご聖体拝領は聖別された、御聖体を修道院で拝領。今年は、毎朝、教会に行けるようになった。時々、閉鎖があるが、4 月、5 月は少人数ではあるが、ミサに参加できるようになり感謝している。

こちらで、使徒職として老人のためのデーケアと幼児教育、日本語教室を持っているが、デーケアは、昨年 3 月より閉鎖した状態。幼児教育、日本語教室は今年、2 月より開校。しかし、コロナの影響で、生徒数は減少。経営も厳しくなり、何かしやうと MARIA 様の月に、彼女に助けを願いながら、「MARIA 様のパステル」の名で、日本人グループ、知人、父兄などの助けを借りて 5 月 29 日販売



パステル⇒揚げパン



することで準備を進めている。

コロナ感染者が増えたりすると、その地域は危険とされ、人々に警戒する事を知らせたりします。これによって再度、外出禁止、経営禁止、学校閉鎖となり、人々の生活が落ち着かず恐れられているという現状です。

いま、パパ様がマリア様の月に世界中で、パンデミックの終息を願ってロザリオの祈りを始められたように、心を一つにしてグループで、そして家庭でも、世界中どこでも祈っています。

これを通して神さまの存在、神さまの愛が意識されますように。 祈りのうちに！

オーストラリア

◆シドニー◆

## みことばの種まき

聖パウロ女子修道会 松 本 恵

私は、聖パウロ女子修道会（女子パウロ会）の会員で、オーストラリアに派遣されて30年ちょっと経ちます。長年「きずな」を送っていただき、みなさんが、直接その土地の人々と大きな関わりを持ちながら、素晴らしい宣教活動をしてられるのを読ませていただくにつけ、自分の在り方を顧みています。

どの修道会でも、会計（実は今私もそうです）や院内の奉仕の仕事など、直接、人と接しない使徒職をしている人はいます。でも私たちの修道会では、書店や学校訪問の使徒職をしている会員以外のほとんどが、仕事関係で関わる方々を除いて、直接、人と接しないか、自分のしている使徒職の実りを見ないまま、「種まき」の仕事に徹しているのです。自分たちの蒔いた種が、いつどのように芽生え、成長しているのかを見ることもなく、後は主ご自身が働いてくださるのだと信頼して、毎日の使徒職を果たしています。特に近年は、インターネットなどのメディアを通して、前よりも一層広範囲なところにその種は飛んでいきます。鳥や風が、種を遠くの遠くまで運んでいくように、その種の行方は、私たちの想像を絶するほどの彼方までのはずですから、どう育っているのか知る由もありません。

でも神様は、私たちの弱さをご存知で、この使徒職を続けていけるよう勇気づけるために、時々、私たちが製作・普及したものの行方・実りを見せてくださることがあります。新聞や雑誌で、私たちの製作した本や映画によって人生が変えられたというような記事を目にする時がそうです。

—エピソード1— 何年か前、私が南オーストラリア州のアデレードの書店で働いていた時に、古くなった聖書を持って訪ねていらした方がいました。その人は、何十年も前、生活に行き詰っていた時に私たちの書店に来られ、シスターから薦められたその聖書を買って行かれたそうです。その後、いろいろな所を渡り歩かれたようですが、いつもその聖書を肌身離さず

持って歩かれ、日々みことばに勇気づけられながら過ごされていたそうです。そして、その日アデレード市内にいらっしたので、どうしても、シスターたちにそのことを伝えたくて訪ねていらっしたというのです。

—エピソード2— 先日こういう事もありました。シドニーの修道院宛てに、大型封筒が届き、中に、表紙の絵やタイトルがはっきり見てとれないほど古くなった薄い子供用の本と一通の手紙が入っていました。その送り主は、ある修道会の修道士さんで、現在 60 代半ばの、タスマニア州という、オーストラリアの南端の島に住んでおられる方です。その方は、年齢的なこともあり、最近ご自分の所持品を整理されているようですが、その中にその本があったそうです。それは、60 年近く前、7 歳の時に、女子パウロ会の二人のシスターたちが、彼のいた学校に本を紹介するために行った時、彼が人生初めて自分で選んで買った本だったようです。今までずっと大切にしていた本を、処分する気になれず、女子パウロ会の本部修道院宛てに、その本の経緯と共に「そちらの会のアーカイブにでも保存していただければ嬉しいです。」と書いて送ってこられたのです。それはアメリカの女子パウロ会が 1957 年に出版したもので、今は出版されていませんから、まさにアーカイブ物です。私たちの普及した 1 冊の本を、これほど大切にされていた方がいたということを知って、みな感動しました。

神さまが時々垣間見せてくださるこのような事例が、弱い私たちを勇気づけ、今日も、信仰のうちに、「みことばの種まき」を続けていくことができることに感謝しつつ……

東ティモール

◆ディリ◆

## 寛大な支援に感謝

聖心侍女修道会 中 村 葉 子

蒸し暑い季節をお元気にお過ごしでしょうか。コロナ禍でもあり、心よりお見舞い申し上げます。

マナルー宛の寛大なご支援金、本日、銀行で入金を確認させて頂きました。世界各地へのご支援でご多用な中、皆様のご厚意で当地の発展の鍵となる基礎教育のためにこれほどのご支援が頂けたことに、改めて心より御礼申し上げます。すでにマナルーには、いつでもお渡しできますと伝えてあります。ディリ市内から凸凹道を相当走らなければならないダレですので、いつ降りて来れるか、わかりませんが喜んですぐにも受け取りに来るでしょう。写真も含めきちんとご報告するよう伝えます。なお、ご寄付金総額の領収書は彼女がお金を受け取らせて頂いた時点で、こちらからお送りいたします。

カンボジア

◆プノンペン◆

## アンチェ教室の歴史

シヨファイユの幼きイエズス修道会 橋 本 進 子

2004 年 10 月にカンポート町に住み始め、タケオ州とカンポート州の村々を訪問し元気で輝いた子供たちの笑顔に魅了される。この子供たちのために何かできないかと考え、主任司祭に相談して読書推進活動を開始。2005 年、修道院の庭さき、続いてチョンカチアン村、キリボ



ン村とチョンケリー村でアンチェ教室を始め、2009年、プレイプロ村とコッソラー村が加わる。子供たちは週1回集い、折り紙、簡単な英会話、そして本を読む2時間の集い。2016年まで年に1回「生きた読書」、遠足を実施。

何故読書推進を：本を読むことは全教科学習の要。読書を楽しみながら、学童期に本を読む習慣を身に付け、視野を広め、人間の基本的能力である読む書く力、思考力、理解力、判断力、想像および創造力等を培い生涯教育の基礎につなげて欲しい。人は本を読んでいる時何かに気付く、この気づきが自己養成を助けると信じる。

アンチェ教室はどのように：ここカンボジアでたくさんのボランティアの皆さんが支えてくださった。村の弟や妹の世話を入れ代わり立ち代わり引き受けてくださった50人以上の恩人方に感謝!! 2、3年前までは30人70人の子供たちがこのプログラムを楽しんで参加していたが、子供たちは近年学業が忙しくなり、またITを楽しんでアンチェ教室の参加者が減少。奉仕を依頼するボランティアを求めることも難しくなった。

しかしながら、神父様方のおかげで、それぞれの村に読書室ができ、こどもたちは自主的に読書を楽しむことができる。今後ともどのように読書を推進するか、大きな挑戦だ!!

ブラジル

◆モジ・ダス・クルーゼス◆

【追悼】マウリシオ森本敬三修道士を偲んで

コンベンツアル聖フランシスコ修道会 松 尾 繁 詞

森本修道士がブラジルに来たのは1992年8

月17日ですから、彼が59歳の時です。ポルトガル語を修得するために日本語を全然話せないパラナ州の首都クリチーバの志願院で一年間過ごすことになりました。カルチャーショックが大きかったようです。

モジ・ダスクルーゼス市の修道院に来てから、ある時点でポルトガル語ときっぱりと決別して言語習得には全然興味を示さなくなりました。『おい、マウリシオが怒っているが、何を怒っているか聞いてくれ!』と、私は度々呼び出されたものです。町に出て自分の用事は一人できちんとしてくるので、これもまた不思議な事でした。わたしが巡回で不在の時のミサのお話は彼が担当してくれました。いつも五分間の短いお話を皆さんは喜んでくださいました。

2021年5月3日月曜日、部屋で倒れて救急車で病院に担ぎ込まれました。大腿骨の手術は成功しましたが、タバコ（ニコチン）で肺が弱っていたので術後の回復が出来ませんでした。丁度、新型コロナ・ウイルスのパンデミックの中で、入院に付き添いが要求されました。12時間交代で、教会の信徒の方々が昼夜付き添ってくれました。訪問は一切厳禁です。私は5分間の制限付きで特別訪問を許されて、彼に病者の秘跡を授けることが出来ました。5月25日火



故 森本敬三修道士

曜日、付き添いの方に見守られながら静かに息を引き取りました。享年 87 歳、29 年間ブラジルに滞在。ともかく「何でも知っていて知らないものはない」と言われていて、私たちは彼に『雑学博士』の称号を与えていました。

ある時、彼のブラジル行きが決まった時点で、司教様の処に挨拶に行った時のことを私に話して一緒に笑ったのですが、彼が「司教様ブラジルに行ってきます」と言うと、『司教様は「そうか、宣教者はナー、立っておればよかと!」と言ってくれんだよ。』彼は喜んでブラジルに來た訳だ。そういえば、彼が亡くなってから二ヶ月が過ぎようとした間にも、時々彼は色々な人の記憶や思い出に立ちだした。冥福を祈っています。

.....

南アフリカ

◆ケープタウン◆

## コロナパンデミックから 1 年

イエスの小さき姉妹会 片 井 暁 子

ここ南アフリカでもコロナパンデミックに突入してから 1 年以上になります。昨年のこの頃は戦々恐々で特にすぐお隣のご夫妻が 1 週間のうちに次々と亡くなられたり、マネンバーグカトリック教会で核として活躍されていた近所に住む友人がアッと言う間に亡くなったりした時には私達もすっかり混乱してしまいました。3 月初めにここの共同体に加わったタンザニアからの若い姉妹はあちこちの訪問もままならず未だにマネンバーグ近辺しか知らないでいます。教会も 3 月末から数ヶ月封鎖され私達もオンラインでのミサ参加でしたがその後、まず 60 歳

未満の信者さん達に解放され聖堂面積の 3 割の参加が許され始めました。と言う事で徐々にミサに参加する事も可能になり今年の四旬節中と聖週間、ご復活祭には本来のお祝いには遥かに及びませんがごミサに与る事ができて何よりのお祝いとなりました。復活祭休暇中に感染者の増加が予想され防止規制が少し強化されたのですが予想に反して増加が抑えられ良かったと喜んだのも束の間、先日再び大統領からパンデミックが第三波に突入している事が言われまともやロックダウンの規制が強化されました。全集会の禁止が言われ日曜日のミサも再び停止となりました。ケープタウン大司教区では信者さん達を守るため一層厳しい規制が出されています。私達も少しずつ始めていた近所の訪問がまたも困難になりました。それでも主日のごミサに与る事すら難しくなっているこの時に司教、司祭方は霊的な糧を与えるあの手この手を使ってくださっています。あちこちの教会でオンラインによるミサの提供、毎日の朗読の振り返り、聖ヨゼフの年を祝うために月 1 回、夜 7 時からユーチューブを通して講話とベネディクション。またご聖体の祭日に向けては 30 日前から毎日 5 分足らずで色々な角度からご聖体に関する話を 30 人の司祭、修道者、信者さん達によって分かち合われるプログラムが持たれたり沢山の工夫がされていますが、ワイファイデータを十分に使う余裕のない家庭もある事を忘れてはいけないと思います。日本同様ワクチン接種が大幅に遅れていましたが医療従事者の接種が終わり今は 60 歳以上の人々に接種を呼びかけています。かなりの人々が既にワクチンを受け私も第 1 回目の接種をしました。全世界が 1 日も

早くこのパンデミックから解放されますように共に祈っています。

---

チャド ◆ライ◆

## 貧しい人は幸いである

ショファイユの幼きイエズス修道会 有 蘭 順 子

チャドも以前から郵便物は遂行していないと聞いていましたが、5月末に「きずな」をはじめ多くの月刊誌をいただき、よろこびと驚きでいっぱいでした。ありがとうございました。

私の住む小教区の6か所の村で婦人達が自力でブロックを作り、小さなアトリエを建立して日銭を得るために活動しています。これからも継続して、更に他の婦人達にも呼びかけをしています。この活動を充実させるために村の婦人達の識字教育が必要です。本や黒板、ノート、チョーク等の必要性を感じています。更に先生方の研修費や謝礼などの援助をお願いします。

私たちはライで30余年前から村で充分勉強出来ない小学5年生から中学3年生までの女子に寄宿舎を提供し、学習を支援していますと共に裁縫や刺繍、編物等のアトリエを開いています。村から始めて来る子供達は未だに針やハサミ、定規等、使用した事がなく、この時間は楽しく大好きです。学期末には展示会をしてご父兄や近隣の方々に観覧してもらい購買していますが、来年度の材料を購入するためのお願いします。

ご支援をよろしくお願いします。

シエラレオネ ◆ルンサ◆

## コロナの早期終息を

御聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

子どもから風邪をうつされ、この3日間自室から出ないように言われたため、幼稚園にも行かずにいます。

聖母マリア様がこのコロナウイルス拡大の中で私たちに慈しみと深いまなざしを注いでくださいますように。

愛する者を亡くし、呆然と悲しむ人を人々を慰めてください。このつらい試練が早く終わり、希望と平和を再び未来に見出すことが出来ますように。

患者さんや犠牲者の家族を励まし、彼らの心を信頼へと導いてくださいますように。

---

日 本 ◆東京◆

## コロナ禍の東京にて

運営委員 波多野 真理子

一向に収まる気配の無いコロナ禍の東京。8月15日現在、四回目の緊急事態宣言が9月30日辺りまで延長される見通しとなり 一年半以上続くこの様な日々に先行きの見えない不安が募ります。

ワクチン接種も、高齢者の方は8割を越えましたが、一般には摂取を終えた人の割合は低く、効果を表すまでには時間がかかりそうです。

仕事を失い生活の厳しさが増す人、人との接触が無くなり孤独の中で暮らす人、等々表に見



えなくても苦しい状況にある人々は確実に増えていると思います。

今日は聖母被昇天の主日。昨年は復活祭・御昇天・そして今日的主日も全て配信の動画を見ながらミサに預かっていたことを思うと、教会で神父様のお話を伺い御聖体を頂けることがどれ程の喜びかを実感する次第です。そして同時に苦しみから抜け出せずにいる人々に寄り添う道を探し実行していきたいと思う日々です。

.....

◆台湾 ◆ナントウケン◆

## 4つの郵便を同時に受け取って

マリアの宣教師フランシスコ修道会 青木青子

今日、オンラインの黙想を終えたところです。主からのサプライズのプレゼントを受けとったようです。本当にありがとうございました。なにしろ2月号から6月以外の7月号まで合わ

せて4つの郵便を同時に受けとったのですから、本当にびっくりしております。もしかすると台湾の郵便局が配達をコントロールしているのかなと思っております。去年も同じように日本から突然たくさんの郵便を受けとったことがありましたので。

私は台湾の山の中の原住民の村に住んでおります。コロナで皆畑に行く以外は家にこもっております。台湾は自主的にステイホームをする人ばかりで、もともと静かな村が犬の鳴き声しか聞こえない日々です。

世界中の人々が安心して人と関われる普通の生活に戻る事を祈りつつ、今できることを模索して主と共に毎日を過ごしていきたいものです。それでは皆様も主により頼みつつお過ごし下さい。そういえば今年に入って「きずな」を受けとっていないことに今気づきました。いつも心にかけて下さり本当にありがとうございます。

今年は帰省の年ですがどうなることやら。



### \* グアテマラ

ベリス・メルセス宣教修道女会 眞神シゲ

無事ワクチンを2回終了し、7月11日グアテマラに出発しました。訪問も楽しいものでした。3年後の帰国時また、お目にかかることの出来ることと、支援の願いが実現する事を祈っています。いっぱい感謝を込めて！

### \* 南アフリカ

イエスの小さき姉妹会 片井暁子

先週、何とカトリック生活がまとめて郵便受

けに!? 2021年の2月、3月、4月、5月号と併せて2019年の8月号の封筒も受け取りました。こちらの郵便事情にも呆れますが、今年の5月号が今受け取れたなんて奇跡的です。取り敢えず報告とお礼まで。本当にありがとうございました。お身体を大切に。

### \* オーストラリア

聖パウロ女子修道会 松本 恵

「きずな」154号、数日前に受け取りました。ありがとうございました。お元気で！



△コロナ禍の宣教地で活動されている皆さんの  
ためにお祈りしています。

(京都府京都市 高月朱美)

△世界にて若者が働いているニュース、シス  
ター方の働きレター私に深くキリストの道を示  
して下さる想いで楽しみにしております。いつ  
もマリア様に祈っています。

(青森県八戸市 平田藤江)

△お元気ですかコロナに負けないようにお互い  
に(お互いに)がんばってください。私もがんば  
ります。(福岡県福岡市 長谷川千恵)

△「きずな」155号拝読しました。ベリス・メ  
ルセス宣教修道女会のシスター弘田しずえ、シ  
スター眞神シゲには大変お世話になっています。  
少しでも皆様の活動の一助となれば嬉しく思  
います。(山口県萩市 萩光塩学院 中村柔道)

△一日も速く、コロナ感染症が全世界収束しま  
す事、皆様の活動が安心して行われます事をお  
祈り申し上げます。(東京都中野区 篠岡淑子)

△厳しい状況と環境の中、ご自身の召命に命を  
かけられるシスター方のお姿に感嘆致します。  
主がいつも共にいてその働きを支えて下さいま  
すように。(シトー会那須の聖母修道院)

△それぞれの地にいらっしゃる、世界の宣教者  
の方々を心から応援します。「きずな」読めて  
嬉しいです。(東京都目黒区 田口幾子)

△種々、困難がおありの中、引き続き頑張って  
下さい。(神奈川県横浜市 吉村毅之)

△いつも、「きずな」などご送付いただきあり  
がとうございます。

(聖パウロ女子修道会 長谷川昌子)

△きずな 155号ありがとうございました。

(千葉県習志野市 東田裕子)

△世界のパンデミックで苦しむ最中にも厳しい  
状況下で奮闘されている皆様のご報告に頭が下  
がる想いです。毎日祈ります。

(兵庫県神戸市 森口輝子)

△日毎の献身ありがとうございます。わずかな  
がら応援させていただきます。

(シヨファイユの幼きイエズス修道会 大阪信愛修道院)

△海外宣教者のみなさんからのお便りの言葉を  
ありがとうございます。日常の中で語られた言  
葉の中に目を覚ましてまわりをながめる風が運  
ばれてくるようです。(福岡県福岡市 森由理)

△海外宣教者を支援する活動費のため児童、教  
員の「おにぎり献金」より寄付致します。

(東京都北区 星美学園小学校)

△宣教者及びスタッフの方々、きびしい状況の  
中ご苦労さまです。私ども調布カトリック教会  
「ゆりの会」は昨年のコロナ禍で約45年続け  
た売店の活動を終了し解散しました。長い間「き  
ずな」をありがとうございました。皆様の上に  
主の豊かな祝福と御助けを祈っております。く  
れぐれも元気で過ごしてください。

(東京都調布市 カトリック調布教会旧「ゆりの会」前田欣子)

△主の守りとお導きを祈り、ご活動に感謝して。  
(東京都文京区 スミス睦子)

△主の平和 コロナの中皆様ご苦労さまです。  
どうぞお身体に気をつけて。

(北海道小樽市 櫻井佳子)

△主の平和が世界中におよびますように、お祈  
りいたします。(東京都西東京市 高山協子)

## ミャンマーとともに祈る

弘 田 しずえ

ベリス・メルセス宣教修道女会

ミャンマーの状況は、出口の見えない厳しさが続き、多分、この原稿が、活字になる頃も、多くの民衆の切望する民主化の実現には、程遠いのではないかと憂慮しています。2月1日にクーデターが起り、正当に選挙された政治家たちが、投獄され、国軍による軍事体制が、民衆の生活を脅かしています。人びとは、これにたいして、素手で立ち向かい、正義、自由と民主化を求めて、恐れずに、不服従行動を、し続けています。6月の時点で、すでに、子供を含む880人が殺害され、5,200人が拘束され、数十万人が、家を失い、さらに少数民族地域では、空爆が繰り返されています。東京の在日ミャンマー大使館の一等書記官と二等書記官が、日本政府に対し、国軍にたいする支持と援助をやめるように、要請した結果、解任されたこと、またワールドカップ、アジア2次予選のために来日したミャンマーのサッカー選手が、帰国寸前に、空港で、亡命を願い出たことも、記憶に新しいところです。

ミャンマーでは、90%の人びとが、仏教徒で、日本に居住するミャンマー人を支援する仏教の僧侶の方々が、諸宗教に呼びかけ、祈りの集いが、対面や、オンラインで行われています。去る6月23日、東京都内のお寺で、ミャンマーの僧侶の方も参加した祈りの集いが開かれました。プロテスタント、カトリックも参加した有意義な祈りの集いでしたが、ミャンマーの僧侶の方のお祈りが、とても心に残りました。修道者として、祈ることは、日常性の中にあり、全ては祈りとなる生き方をしているはずですが、この僧侶の方のなされた祈りは、今まで考えてもみなかった祈りだったのです。「嫌いな人の幸せを願えますように、嫌いな人の望みが、実現することを願えますように、嫌いな人が、安心して生きるように願えますように」。ノートをとらなかったので、正確ではないのですが、「嫌いな人」のために、声を出して祈ることは、驚きであり、発見であり、招きと感じました。

最後に「ミャンマー連帯の宗教者の祈り」を皆で唱えましたが、集まった全員の心の叫びが、夜空に響きました。

- (声) 今、ミャンマーでは、多くの人が傷ついています。暴力によって、たくさんの人が、傷ついています。
- (一同) この暴力が、今夜収まりますように。そして、あしたも、あさっても、繰り返されることはありませんように。
- (声) 今、ミャンマーでは、多くの人が無実の罪で囚われています。何千人もの人が、真実を明らかにしようとしただけで、囚われています。
- (一同) 今夜、囚われている人たちが、解放されますように。そして、あしたも、あさっても、再び囚われることはありませんように。
- (声) 今、ミャンマーでは、多くの人が飢えて苦しんでいます。数えきれない人たちが、十分な食料がないために、疲れ果てています。
- (一同) 今夜、人びとに、十分な食料が与えられますように。そして、あしたも、あさっても、再び飢えることはありませんように。
- (声) 今、ミャンマーでは、傷つけられながらも、尊厳を失わず、立ち上がっている人たち

がいます。暴力に対して、不服従を貫いている人たちが、たくさんいます。

(一同) 今夜、ミャンマーの全ての人のそのんげんが、光り輝きますように。そして、あしたも、あさっても、その光が、ミャンマー中を照らしますように。

市民不服従のしるし



## 新入会員 (敬称略)

個人会員 5名

櫻井 茂子 (大阪府大阪市)    平賀 徹夫 (宮城県仙台市)    田口 幾子 (東京都目黒区)  
三谷 正子 (石川県金沢市)    加藤 千代 (茨城県石岡市)

## 事務局より

- ◎早一年以上コロナに振り回されており更に脅威が増している今日この頃ですが、皆様におかれましてはお元気で安全にお過ごしください。
- ◎コロナの影響があるとはいえ、宣教者の皆様から様々な手紙や報告が届きました。
- ◎今年は当会で3年ごとに宣教者の動向を調査する年ですが、男女修道会やそれ以外の宣教者の方も情報を会へお知らせください。よろしくお願い致します。
- ◎今年は(さいたま教区)山野内倫昭司教様に you-tube で「海外宣教者のお話を聞く会」をお願いしております。題名は「新しい熱意と喜びをもって出向いて行く教会」約1時間です。どうぞお楽しみに。詳しくは改めてお知らせします。
- ◎ご家庭に眠っています未使用の切手や書き損じはがきをお送りくださいませんか? 当会では通信費として有効に使用させていただきます。

## 発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112  
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会